

編集後記

大学の事務職員の在り方が議論されるようになって久しくなりましたが、近年、大学をとりまく環境の変化はより一層激しさを増しており、図書館職員についても、必要とされる能力の多様化から、仕事を通じた経験から人が育つのを待つだけの余裕はほとんどなく、業務によっては身につけた能力が通用する時間もより短くなっています。2000年に発行された本誌8号で「人材育成」を特集し、メディアセンターでの研修プログラムについて紹介しましたが、本号で改めて「人材育成」を特集として取り上げ、育成される側・する側、それぞれの立場の視点からこの難しいテーマについて現状や課題を論じていただきました。

慶應義塾には、単に教員から教わるだけでなく、学生が教えることもあるという「半学半教」の気風がありますが、図書館職員が長期的展望のもとにこれからの時代に求められる力を獲得していくためには、この気風の中で、互いに教えあい、学びあうことで自己研鑽していくとともに、図書館も組織として意識的に人材を育成していかなければならない状況にあると言えるでしょう。本号の特集が多くの方にとって今後の人材育成のありかたについて考える契機になればと思います。

特集の他にも、各キャンパスのメディアセンターにおける際立った活動について報告しています。メディアセンターの現在の姿をお伝えするとともに、次世代のメディアセンターに向けた取り組みのひとつとしてお読みいただければ幸いです。

(石原 智子)

誌名変遷

八角塔 : 1号 (昭42 (1967). 7) - 6号 (昭45 (1970). 3)
KULIC (ISSN 0913-0705) : 1号 (昭45 (1970). 10) - 26号 (1992. 11)
MediaNet (ISSN 0919-8474) : No. 1 (1993. 11) -
